

佳作

館矢間小学校 3年 杉本 悠頼

表題「はれときどきぶた」

書籍名『はれときどきぶた』

ある所に畠山則安という人がいて、畠山則安は二年生から日記をつけていて、二学期に持って行ったたら和子先生にほめられた。でも、その時和子先生はこう言った。「日記は人に見せるものじゃないわ。これからは、人に見せなくていいわ。だから本当の事を書きなさい。」そして、本当の事を書いた。

そして、えんぴつでぐちゃぐちゃにしたいくらいの事を書いた。そして、あしたの日記を書く事にした。そして、書き始めた。そして、トイレにだいじゃがいたでたらめを書いた。そして、次の日はばんごはんがえんぴつの天ぷらにしたでたらめを書いた。そして、次の日は天気の話だ。午前中ははれるが午後はぶたがふって、三時のおやつはだんごで、お母さんが一つつまんでのどに首

を引っぱったら首がのびたというでたらめを書いた。そして、明日の日記に書いた事が本当になった物語です。日記を毎日つけて書く事は、すばらしいと思います。でも、明日の日記だと言ってありそうな事ではなくでたらめを書いたら、あまり日記をつけていても意味はないと思っています。日記で毎日の事をふり返ったりしてごせるようにできるので、これからは毎日書いてみたいと思っています。これから、何年も書きつけてみたいです。

ぼくは、日記ではありませんが、サッカーノートを書いていきます。サッカーノートを書いている意味は、サッカーのれん習のふり返りができるからです。ですから、毎日主人このように書いていきたいです。

